

教科等研究会（小学校道德部会）

平成28年度 研究活動のまとめ

1 研究テーマ

自己を見つめ、自己の生き方についての考え方を深めるための、
多様な指導方法の工夫。

2 研究経過

第1回			第2回		
6／9	34人	御船町立御船小学校	11／4	甲佐町立甲佐中学校	松本 晶子講師
第3回			第4回		
12／12	嘉島町立嘉島西小学校	桑原 麻衣教諭	2／17	御船倒立御船小学校	松出 直子教諭

3 研究の概要

（1）研究の内容

特別の教科道德の移行に向けて、登場人物の気持ちを考える話し合いに止まることなく、更に、問題解決型の学習や体験的な学習を通して議論する中で、道德的価値についての多面的・多角的に理解を深め、よりよく生きようとする気持ちを高めることが、「分かる・楽しい」道德の授業につながると思った。

◎「分かる」道德の授業とは・・・

価値理解、人間理解、他者理解、自己理解を深める授業

＝道德的価値を理解し、自分の生き方についての考えを深める授業

※①ねらいとする道德的価値が大切であることが分かる（価値理解）

②大切ではあるが道德的価値に根ざした行為は容易ではないことが分かる（人間理解）

③道德的価値にかかわる感じ方・考え方は人によって様々であることが分かる（他者理解）

◎「楽しい」道德の授業とは・・・

子どもが、「考えたい、聞きたい、話したい」と思える授業

＝道德的価値を、自分とのかかわりで考える授業

児童にとって「楽しい」と感じる授業とは、考え議論する道德授業において、道德的価値を多面的・多角的に理解し、深める授業である。本研究では、学習指導要領に示された指導方法の工夫の中からねらいや児童の実態、資料や学習過程に応じて、最も適切な学習指導の展開や指導方法を選択して指導案に明記し工夫することとした。

◇学習指導の多様な展開

- ① 体験の生かし方を工夫した指導；日常の体験やその時の考え方や感じ方を生かす
- ② 各教科等との関連をもたせた指導；学習時期を考慮し、相互の関連を図り指導効果を高める

◇道德の時間に生かす7つの指導方法の工夫

- ① 資料提示；教師による読み聞かせ（紙芝居、ペープサート等）、ビデオ映像等
- ② 発問；児童の意識の流れに沿った発問、考える必然性や切実感のある発問等
- ③ 話し合い；意図的指名、座席配置の工夫、ペアやグループ討議などの工夫等
- ④ 書く活動；吹き出しを付けたワークシートの工夫等
- ⑤ 表現活動；役割演技、動作化等
- ⑥ 板書；順接的な板書、構造的な板書、意見の違いを類型化した板書等
- ⑦ 説話；日常の話題や学級の出来事を生かした内容、「私たちの道德」の活用等

（2）成果と課題

【成果】

- 事前研で資料分析及び発問の工夫等について協議を重ねたり、会員による先行授業を実施したりして、授業の流れや児童の反応について情報交換を行いながら指導案を練り上げることができた。

- 発問を中心とした指導法の工夫や児童の体験をつなげる学習過程の工夫をすることで、道徳的価値を自分とのかかわりで考え、生き生きと自分の思いを伝え合い、話し合う児童の姿が見られた。

【課題】

- 平成30年度から「特別の教科 道徳」が設置されることになり、『考え、議論する』道徳科への転換が求められている。今年度は低学年の実態に沿った授業の在り方を考えることができた。次年度は、小学校6年間の発達段階に合った、「考え議論する道徳」への転換のための授業の方法を確立していく必要がある。

4 実践事例

(1) 授業の概要

第1学年 主題名 みんなが使うもの 内容項目C－(1) [公德心・規則の尊重]

資料名 『きいろいベンチ』 出典「私たちの道徳」

授業者 嘉島町立嘉島西小学校 桑原 麻衣 教諭

本授業では、以下のような指導の工夫（展開の工夫）を行った。

- ・ 導入では、児童の現状を写真で提示し、価値への関心をもたせるようにする。
- ・ 紙飛行機を飛ばすことに夢中になる登場人物に共感させるため、資料を前半・後半に区切って提示する。
- ・ 場面を想起させる工夫として、生活科「紙飛行機を作って飛ばそう！」という学習を設定して、紙飛行機を夢中になって楽しんだ自分たちと、登場人物の気持ちを共感して考えられるようにした。
- ・ 未来に明るい展望をもたせるため、児童が望ましい価値に対して、できている行動を提示する。GTには校長先生に来ていただき、子どもたちのこれからもっとよくなりしたいという気持ちを高めるようにした。

(2) 学習指導案

第1学年1組 道徳学習指導案

平成28年12月12日（金）

指導者 嘉島西小学校教諭 桑原 麻衣

1 主題名 みんなが使うもの 内容項目C－(1) [公德心・規則の尊重]

2 資料名 『きいろいベンチ』（私たちの道徳）

3 主題について

(1) ねらいとする価値について

低学年の児童は、学校という集団を通して社会の基本的なルールを守る。しかし、この時期の児童は、約束やきまりについて、「大人から教えられたから」「守らないと叱られるから」と他律的に守っていることが多い。これは、自己中心的な考えが強く、人との関わりの中に自分が存在しているということの自覚が欠けているためと考えられる。そこで、「きまりだから守る」ではなく、「約束やきまりは、互いが気持ちよく過ごすためのものであることを自覚して約束やきまりを守る」という態度を養うために、社会や法のきまりのもつ意義について考えさせた上で、自立的に約束やきまり、公德心を大切にすることができる児童を育てていくことを願ってこの主題を設定した。

(2) 児童の実態について（男子12名、女子14名の26名である。）

本授業で行う価値項目（人とかかわり、規範意識）について、「学校の決まりをまもっている」「家の人や友達との約束をまもっている」という項目において、どちらかといえばそう思わないと答えた児童が数名いた。

また、今回は、「どうしてきまりや約束を守らなければならないのか」というアンケートを行い、児童がどのような認識なのかも調査した。その結果が、以下の通りである。

① 先生やお家の人に言われたから。	4
② きまりだから。	6
③ 守らないと叱られるから。	3
④ みんなが嫌な思いをするから。	13
⑤ 友達から意地悪をされるから。	0

この結果から、まだ、自己中心的な考えが強く、人との関わりの中に自分が存在しているということの自覚が十分でないという実態が見える。

(3) 資料について

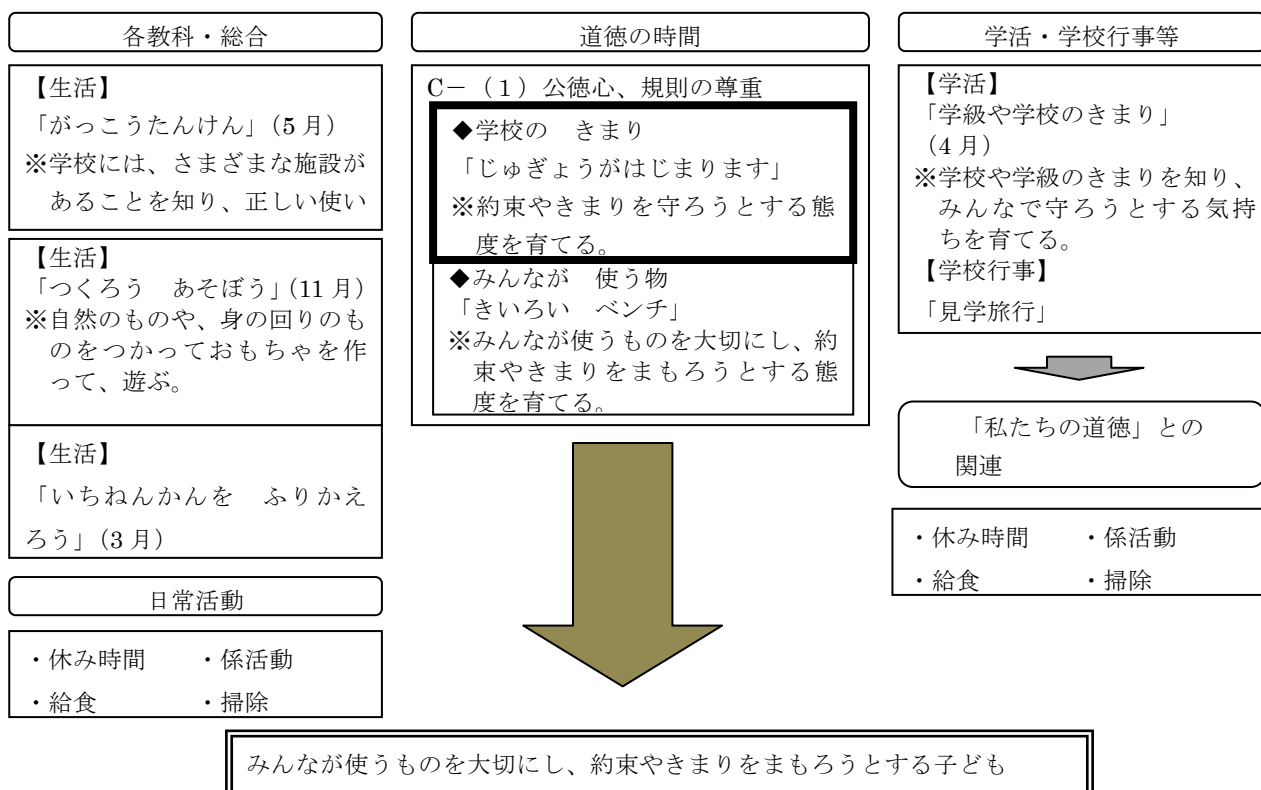
本資料の内容は次の通りである。雨上がりの公園へ紙飛行機を飛ばしに行ったたかしとてつおは、泥だらけの靴のまま、黄色いベンチの上に乗って夢中になって飛行機を飛ばし、ベンチを汚してしまう。それで、その後にベンチに座った女の子が汚れてしまう。泥を落とすおばあさんの言葉に顔を見合わせ、迷惑をかけた自分に気づく。遊びに夢中になるあまり、そこに思いの至らなかった二人が何に気付いてはったのか、二人の思いについて考えることができる。また、自分たちがした行為が、他の人にどんな影響を与えているのかを具体的に考えることを通して、毎日の生活の中で、公共物を大切にし、約束やきまりを守ることが、明るく楽しい生活につながるのだということに気付くことができる資料である。

(4) 指導にあたっては以下の点に留意したい。

以上のような価値、児童の実態から、指導にあたっては、次のような点に留意して、本主題のねらいが十分に達成できるようにしたい。

- ・事前にアンケートを行い、道徳的価値に関する児童の意識を把握しておく。
- ・資料提示前に「みんなが つかうもの」というキーワードを提示し、追求すべき道徳的価値をおさえる。
- ・たかしとてつおが紙飛行機を飛ばす気持ちに共感することができるように、資料を前半と後半に分けて読むようにする。
- ・事前に生活科の授業で紙飛行機を飛ばす体験活動とを行い、そのことを想起させることで、たかしとてつおが、夢中になって紙飛行機を飛ばした気持ちに、十分に共感できるようにする。
- ・中心発問の場面では、自分の考えや感じていることを明確にさせるために、ペアでの話し合い活動を取り入れる。
- ・自分を見つめる場面では、導入で提示した写真を手掛かりに、自分の行動を振り返ることができるようにする。
- ・あたためる場面では、ゲストティーチャーとして校長先生に、みんなが使うものを大切にしている様子を褒めてもらうことで、さらに善くありたいという気持ちを高めるようにする。

4 各教育活動との関連



5 本時の学習

(1)ねらい

みんなが使うものを大切に、約束やきまりをまもろうとする態度を育てる。

(2)展開の記録

過程	学習活動	主な発問 (◎、○)、指示 (●)、児童の反応 (・)	指導上の留意点と評価	備考
気付く 5	1 みんなで使う物には、どんな物があるか出し合う。 2 キーワードと登場人物を確認する。	○学校の中で、みんなが使うものや場所には、どんなものがありますか。 ・ボール・本・トイレ ・すべり台・掃除用具	・みんなが使うものの写真を示しながら進める。その時に、大切にできていない写真も含ませる。 ・価値を明確にして、方向付けを行う。	写真 挿絵
とらえる 1 8	3 資料「きいろいベンチ」の前半を聞いて、話し合う。 (1)紙飛行機をとばしているときの、たかしとてつおの気持ちを考える。 4 資料「きいろいベンチ」の後半を聞いて、話し合う。 (3)おばあさんと女の子の様子を見て、顔を見合わせたときの気持ちを考える。 (4)学んだ心を考える。	○今日は、みんなが使うものについて考えてみましょう。 ○ベンチに乗って、紙飛行機をとばしていたとき、二人はどんな気持ちだったでしょう。 みんなも、この前紙飛行機で遊びましたね。 ・楽しいな。・嬉しい ・もっと遠くまで飛ばすぞ。 ・気持ちがいいな。・もっと飛ばしたい。 ・高いところから飛ばすと、もっと楽しい。 ・ベンチの上からだ、よく飛ぶな。 ◎「はっ」として、顔を見合わせた二人は、どう思ったでしょう。 ・どうしよう。・(おばあさんと、女の子が) 困っている。 ・かわいそうなことをした。 ・女の子のスカートがよごれてしまった。・しなければよかった。 ・もう、ベンチに乗らない。 ・もう、しないでおう。	・紙飛行に夢中になった気持ちに気付くことができるよう、前半だけを読む。 ・事前に行った、紙飛行機を飛ばす体験活動を、写真を通して想起させることで、二人の気持ちに十分に共感できるようにする。  ・どんな時に「はっ」とするのか、二人の表情を手掛かりに、「はっ」とするという言葉の意味をおさえて考える。 ・二人がどんな気持ちになったかをしっかり考えるために、ペアでの話し合い活動を取り入れる。 ・楽しいという思いだった二人が、「はっ」とした時に、女の子とおばあさんが困っているということに気付かせる。	挿絵 写真 (PC)
みつめる 1 5	4 今までの自分の生活を、振り返る。 	○どんな心をもっていれば、ベンチを大切にできたと思いますか。 ・自分だけでなく、みんなのことを考える心。 ○みんなも、今までにたかしやてつおのようなことは、ありませんでしたか。 ・本を、乱暴に使ったことがある。今度から大切に使おうと思う。 ・ハンカチで手を拭かずに、水を床に落としていた。今度からは、他の人のことを考えよう。	・みんなのことを考えて、みんなのものを大切にするという気持ちに気付くことができるようにする。 ・写真を使い、具体的な場面を通して、自分を見つめることができるようにする。 	写真
あたためる 7	校長先生の話聞く。 	●今日は、みんなに伝えたいことがあるということで、校長先生が来てくれました。	・校長先生にみんなが使うものを大切にしている様子を褒めてもらい、更に善くありたいという気持ちを高めて終わるようにする。	

1 1

1

1

1 1 1